

1 学校評価アンケートの分析

大項目	中項目	番号	評価項目	保護者による評価の分析結果・改善方策
学校経営	開かれた学校づくり	①	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝えている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせた結果は86%と、昨年度の94%と比較すると約8%下がっています。学校の様子を伝える学校便りや学年通信、ホームページなどで学校の様子をお伝えすべきところですが、発行数や内容、更新回数などが不十分だったところがあるようです。来年度は今一度、情報発信の在り方について、校内で再検討し、学校での児童の様子を分かりやすくお伝えできるよう努めていきます。
		②	学校は、保護者や地域の人々が子どもたちの様子を知る機会を設けている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると94%と、昨年度の96%より2%下がっています。今年は新型コロナウイルスの影響で、参観日の回数も減り、音楽会なども中止せざるを得ない状況がありました。運動会やオープンスクール・マラソン大会は、見に来ていただく方の人数制限をしたり、時間を短くしたりという対応をしながらでしたが、感染症対策を講じ開催することができました。こういった機会にこそ、様々な方法で児童の様子を発信していかなければならないと感じました。来年度も感染症対応が求められることが考えられますので、その時々に応じて臨機応変に対応し、情報発信していきます。
	信頼される学校づくり	③	学校は、保護者からの問い合わせや訪問に対して、ていねいに対応している。	本年度は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は昨年度と同じ89%でしたが、「そう思う」の割合は3%上昇しています。一方「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答は5%上昇しています。電話での問い合わせや学校への訪問に対しては、全ての方々に、ていねいに素早く、適切な対応を行うことが基本です。そのため、今後もしっかりと職員で共通理解を図り、開かれた学校、信頼される学校づくりに努めていきます。
		④	学校は、保護者や地域の方々の声を教育活動に生かそうと努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると、昨年度より2%減って85%ですが、「そう思う」の割合は4%上昇しています。一方「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答は昨年より2%上昇しています。本年度は第1回の学校評議員会は開催できましたが、新型コロナウイルスの関係で、PTA総会も紙面決議で行い、その他委員会等も最低限の回数で実施してきました。関係団体の会合もかなり減少したため、例年のように会合の機会を利用して皆さんからのご意見をお聞きする機会も少なくなっていました。来年度は、いまだ見えないところもありますが、できる限り、各関連団体と連携を図りながら、家庭や地域の声を生かすことができるよう取り組んでいきます。
	学習環境づくり	⑤	学校は、校舎内外をきれいにし、落ち着いた学習環境の整備に努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方は94%と、昨年の96%より2%減少しています。校内整備に関しては、児童は黙々と清掃を心がけ、時間いっぱいはいねいに清掃することを指導し続けています。また、本年度も夏の暑い時期にPTAのみなさんに奉仕作業として、草刈りや植え込みの剪定・ペンキ塗り・窓拭きと、大変お世話になりました。また、スクールサポートスタッフがコロナ対策ということで市より配置されましたが、消毒作業の合間に、植え込みの剪定もしています。花壇整備では、職員や委員会活動で季節に合った花を育てたり飾ったりして、環境整備を心がけています。これからも日々の清掃活動や環境美化に力を入れるとともに、学校施設、教育環境の適切な維持管理に努めていきます。
教育活動	学力の向上	⑥	学校は、子どもたちに基礎的な学力が身につくように努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると、昨年度の95%より6%減少し、89%となっています。しかし、「そう思う」の割合は11%上昇しています。本校は、「確かな学力の確立のため、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成」に重点をおき、取組をすすめてきました。具体的には、複数の教員による授業の推進や、算数教室・サポートルームにおける補充学習など、個に応じたきめ細かな指導に取り組んでいます。また、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」ということについても考え、学びの質の向上に向けた授業研究も推進しています。今後も、児童の「主体的・対話的で深い学び」をさらに実現するため授業研究を深め、一人一人の確かな学力の確立をめざして取り組んでいきます。
		⑦	学校は、子どもたちに学習の習慣を身につけさせるとともに、学習意欲を高めようとしている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると、昨年度と変わらず91%となっています。本校では、今年度も、基本的学習習慣の確立のため、「朝の学習タイム」の充実や「勉強の仕方7つの約束」の指導の徹底に努めたり、「家庭学習の手引き（菅田小版・龍野東中校区版）」を発行して家庭学習が充実したものとなるよう家庭への啓発を行ったりしてきました。また、毎学期の読書週間や本の読み聞かせなど読書活動に積極的に取り組んだり、学習意欲を高めるためのゲストティーチャーを招聘した体験学習や、効果的なICTの活用を進めたりしてきました。今後は、学校での取組を継続するとともに、「家庭学習の手引き」を家庭でさらに活用してもらうため懇談などで啓発を行い、児童が意欲的に学習に取り組めるよう授業改善や教材研究に努めていきます。
	道徳教育や人権教育の充実	⑧	学校は、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てることに努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方は、昨年度の93%から6%減の87%でした。学校では、集団生活や学習活動の中で規範意識を培い、道徳教育や人権教育を中心にして生命を大切にする心や他人を思いやる心を育てることに努めています。しかし、人を傷つける言葉を言ったり、相手の気持ちを考えずに行動したりすることでトラブルにつながることもあります。今後も日々の教育活動の中で、命は何よりも尊いものであることを意識させ、家庭と連携して自他を認め合える心を育てていきます。また、「特別の教科 道徳」の充実、体系的な人権学習など全職員が共通理解し、さらに研修を深めるとともに、福祉体験、ふれあい学級、人権標語の募集や掲示など、児童が人権意識を育めるような取組を続けていきます。
		⑨	学校は、子ども一人一人を大切に、いじめのない仲間づくりに努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方は昨年度の86%から4%減の82%でしたが、「そう思う」の回答は昨年度よりも7%上昇しています。学校では、道徳教育や人権教育をはじめとして日々の学習や生活を通して仲間づくり活動を行い、すべての児童が安心して学校生活を送れるように努めています。日々の児童の様子を見ることはもちろんのこと、月に1回、日頃の悩みを書けるように配慮しながら「心の健康カード」を書く機会を設け、児童の心状態把握に取り組んでいます。気になる内容に声をかけたり内容を詳しく聞き取ったりし、それをもとに生活指導や個別指導を行っています。また、児童にとって心休まる場所となるようにサポートルームを設置し、生活や学習の相談ができるようにするとともに、スクールカウンセラーによる相談も定期的に行っています。実態把握に基づく指導を行っていることを保護者に知っていただき、今後も学校と家庭が一体となり、「いじめは許さない」姿勢で指導を行います。
		生活指導	⑩	子どもたちは、家族や友だち、地域の人々に進んであいさつをしている。
		⑪	子どもは、楽しく登校している。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると昨年と同じ94%でした。多くの児童は、毎日楽しく登校しています。一方で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という意見を重く受け止め、これまでの取組を見直すとともに、引き続き児童が楽しく登校できる環境づくりに取り組んでいます。具体的には、仲間づくりやわかる授業づくりを基本とし、全教職員で児童への声かけや友だち関係の観察、児童理解研修の充実を図るなどとして、児童の内面的な理解や課題の解決に努めています。また、「分からない」と回答された方もおられるため、学校だよりや学級通信等で児童の様子を発信していきます。
		⑫	学校は、子どもや保護者との連絡や相談に適切に対応している。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方は、昨年と同じ91%でした。保護者からの相談を受けた場合は、担当及び関係の職員で共有し、必要に応じて全教職員で問題点を共通理解し、早期解決できるよう努力しました。個別懇談は、1学期末に全児童と、2学期末に希望者を対象として行い、学校や家庭での様子を伝え合う場となるようにしました。また、児童の様子で気になることがあった場合は、その日のうちに連絡帳や電話、家庭訪問等で連絡を行いました。一方で、「一人一人の心に向き合って話をしてもらいたい」や「教師と子供の間に関係ができていくか見直してほしい」などの保護者からの意見が出ているため、全教職員で児童との関わり方を見直し、児童一人一人の気持ちを大切にしたいきめ細やかな対応に努めます。また、スクールカウンセラーによる教育相談や関係機関の紹介などを行っていることを周知し、充実を図っていきます。
	健康教育・安全指導	⑬	学校は、子どもが安全で健やかな生活を送れるよう努めている。	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答された方を合わせると、95%と高い評価を得ています。火災・地震を想定した避難訓練では、想定を段階的に変化させるなかで、児童自身が自分で考え判断し行動できることをねらいとして取り組みました。また、「明日に生きる」や「キッズ防災検定」を活用し、様々な防災に関する指導を行いました。見守りボランティアにおいては、PTAや地域の方々のご協力により、登下校を中心に児童の安全を見守っていただいています。保健指導では、コロナ禍に対応すべく、衛生面の管理に力を入れ、登校直後の手洗いの推奨やマスク着用の徹底、児童下校後の消毒をしました。また、毎日検温、健康チェックの提出をすることで、児童の健康面に関する取組にも力を入れています。休み時間の外遊びの奨励、手洗い、うがいの習慣づけなど、健康委員会でも呼びかけています。
		郷土愛・地域との連携	⑭	学校は、地域に対する誇りや愛着を育てよう努めている。
	特定課題		⑮	学校は、地域との関係性・施設や地域の方々との連携・交流を積極的に進めている。

2 学校評議員会でのご意見（今年度は紙面によるアンケート形式で実施させていただきました。）

- ・毎月「菅田小だより」を読ませていただき、温かくしっかりとした教育理念に包まれた学校経営をされていると感じます。
- ・総合的な学習の時間で、学習に参加させていただいたが、積極的な児童と消極的な児童の差が大きかったように感じます。これも菅田小の教育課題でしょうか。
- ・コロナ禍の一年、大変であったと感じます。「何事もなかった」という裏に、普段の何倍もの配慮とエネルギーを費やされたことが想像できます。
- ・先生方の評価を見ても、教職員の意思疎通が図られていることがよく分かります。
- ・マスクをした生活で、児童も地域の人に挨拶はしにくくなったと思います。でも、大人が声を掛けると元気な返事が返ってきています。
- ・今年はコロナの影響で行事等も制限され、様々な団体との交流も難しい一年でした。そのような中で、いろいろと工夫され取り組まれている様子を、学校便り等で知ることができました。
- ・こども園から小学校への滑らかな接続のために、今後とも連携を取らせていただきたいと思います。
- ・下校途中、交差点付近で児童がうすくまっています。様子を聞くとも便道が数日無く腹痛であるとのことで、家に連絡をしました。毎日の便のチェックも必要かなと思います。
- ・コロナの中で、学校行事の持ち方、子どもたちへの対応など、工夫して実施され、先生方大変な思いに感謝いたします。
- ・菅田小だよりを毎月読ませていただいています。大変参考になります。
- ・3月15日(月)～3月20日(土)の6日間、「菅田ふれあい公園」での託児交流事業に、菅田小学校の子どもたちも参加して、関係団体と連携開催できることを期待しています。
- ・理科などの準備物は、できるだけ学校でまとめて購入してほしいです。古タオルなどはよいが、2種類・3種類あるものは、お店を2・3件回らないといけない時がありました。
- ・資源回収も常に入れられるBOXがおけると、家にたまらないので、みんなが入れたり集めたりしてくれると思います（たまたま取りに来てもらうなどの対策は必要）。BOXは校内でなくてもよいと思う。
- ・地域の方々から子ども達に対しての温かい声掛けが、もっとあってもよいのかなと思いますが、その分防犯教育をしっかりと行う必要がありますね。